

# 科学技術・学術審議会資源調査分科会報告書 「文化資源の保存、活用及び創造を支える科学技術の振興」について

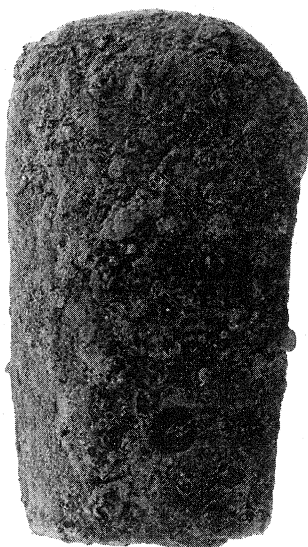
文部科学省科学技術・学術政策局政策課資源室

かつては文化芸術も科学技術も同じ「art」と呼ばれていたが、文化芸術と科学技術に分化し、さらにも細部化したと言われており、今日、文化芸術すなわち文化資源と科学技術を再び融合して新しい価値をつくり出していくことが期待されています。

一方、「文化芸術の振興に関する基本的な方針」の中でも、文化財等の保存及び活用について科学的な調査研究の成果を生かした取組



プラズマ処理後の象嵌遺物



プラズマ処理前の象嵌遺物

を推進すること、国際協力等の推進、情報通信技術の活用促進などがうたわれています。

こうした背景から、科学技術・学術審議会資源調査分科会では、文化資源委員会を設置して、文化芸術と科学技術の再融合を目指して、「文化資源の保存、活用及び創造を支える科学技術の振興」について調査審議し、二月一九日に報告書を取りまとめました。

その提言のポイントとしては、  
①「文化資源の保存を支える科学技術の振興」については、

- ・遠隔探査、地中レーダー探査など文化資源の探査のための研究開発
- ・放射性炭素年代測定など文化資源の科学的年代測定のための調査研究
- ・先端技術と文化芸術の融合による文化資源の科学的分析のための調査研究
- ・有形文化資源の保存修復技術の研究開発などを推進することを提言しております。

②「文化資源の活用を支える科学技術の振興」については、  
人工現実感技術、いわゆるバーチャルリアリティの技術による文化資源の保存・展示

を推進すること  
を提言しております。

③「文化資源の創造を支える科学技術の振興」については、  
・日本の魅力を高める観点からのメディア芸術関連技術の振興  
などについて提言しております。

また、今後の課題として、  
①関係者の連携が取れているか？

——関係機関と産業界の一層の交流・協力  
②既存の専門分野に捕らわれていないか？

——文化芸術と融合させた科学技術  
③実用に耐え得る技術になっているか？

——現場で使いやすい技術  
などを掲げております。

今後は、この報告書を、第三期科学技術基本計画に向けて、「文化芸術と科学技術」について議論をするきっかけとしたいと考えています。

報告書は、文部科学省ホームページ ([http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu3/index.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu3/index.htm)) に掲載されているほか、国立印刷局から刊行物として発行されています。